

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	海老名市立わかば学園		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 2月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	168	(回答者数) 86
○従業者評価実施期間	2026年 1月 8日		2026年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者と一緒にお子さんに合った支援を考えることができる	・親子登園をお願いしており、通園療育ではフリープレイや報告時などに、療育相談は親担当職員を配置することで、積極的に保護者と話す機会を設けている。 ・保護者と顔を合わせてお話しできることで、活動への取り組み状況をタイムリーに共有し、お子さんの好きなことや苦手なこと、家庭での様子を踏まえた支援を考えることができる。	・フリープレイや報告時、定期的な面談だけでは不十分なこともあるため、お電話でお話を伺ったり、別枠で面談時間を設定できるようにする。その際の申し出方法や面談可能な時間帯などを保護者にわかるように周知する。
2	・子どもに合わせて活動スペースの確保とプログラムの実施ができる	・市立の会館の3階部分と2階の一部が専有スペースとなっており、療育に使用する部屋以外に体育室や屋上などを使用することができ、活動のスペースが十分に確保できている。また、冷暖房が完備されており、季節を問わず快適に過ごせている。 ・複数担当制により、様々なアイデアを出し合い、また遊具や教材を工夫することで個々に合わせたプログラムを提供している。	・老朽化が進んでいる箇所もあるため、こまめに点検をし、安全に過ごせる環境を整える。 ・クラスや職員間で意見を出し合い、クールダウンスペースを確保するなど、スペースを有効活用する。 ・施設内外の研修やSNSを活用し、活動プログラムのマンネリ化を防ぐ。
3	・出張療育相談を通して、市内の幼稚園、保育園と連携をとることができる。また、就学の際に教育支援センターの協力も各小学校との引継ぎを直接行なうことができる	・市単の出張療育相談事業を担当している職員を通して、市内幼稚園および保育園との情報共有や連携を図るようにしている。 ・教育支援センターとの取り決めに基づき、わかば学園を利用しているお子さんが就学相談を経て就学する際は、お子さんの様子を直接就学先の先生に伝える機会を設けている。	・対象児および対象園が増えていることで、巡回にいける回数が限られており、以前より得られる情報が減っているため、今後の事業展開について市との協議が必要。 ・就学相談を受ける件数の増加により、学校との引継ぎスケジュールの調整が難しくなっており実施方法の見直しを図る必要がある。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育相談の回数が少ない	・なるべく多くの利用者を受け入れたいと考えており、また、お子さんの療育と保護者相談を同時に行なえるよう親担当職員とこども担当職員の2名を配置しているため、お一人当たりの利用回数を制限せざるを得ない状況。	・利用希望者に対して、提供枠を増やせるように、スペースと人員を増やす必要がある。海老名市とも協議し、わかば会館再編の際に枠を増やせるよう準備を進めていく。
2	療育相談を利用されている保護者への支援が不足している	・通園療育の利用者に対しては、家族懇親会やクラス懇談会、家族のための勉強室、OB会、父親懇親会、季節の行事等で交流や学びの機会が設けられている。 ・療育相談利用の保護者に対しては、月1回と利用回数も少なく、外部の研修やイベントの情報提供のみとなり、交流や学びの機会を設けることができていない。	・療育相談を利用の方が参加できるよう、市内親の会の協力を仰ぎ、次年度に向けて保護者座談会等の準備を進めていく。
3	各種マニュアルおよび安全計画等の保護者への周知・説明が不足している	・重要事項説明書に一部明記しているが、詳細な周知・説明はできておらず、方法の検討が必要。	・通園療育の新年度説明会や、契約更新時に説明する機会を設ける。また、適宜閲覧できるように、掲示場所等を検討する。